

学校だより

横浜市立都岡小学校



せんだん

3月号

令和6年2月29日



桜のように

校長 藤本 萌

「春は一雨ごとに近づいてくる」と言われます。寒さが身に凍みる日もありますが、今年もあと半月ほどすれば、各地から桜の花の便りが届くことでしょう。

桜と言えば、0～10度前後の気温の低い日が一定期間続かないと、花が開かないそうです。冬が暖かければその分早く咲くというわけではないというところに、桜の木のたくましさを感じます。

さて、振り返ってみれば、年度初めの4月から1年間、子ども達はそれぞれの学年で様々な力をつけ、数々の経験をしながら成長してきました。保護者の皆様には、学級通信や学年だよりを通じて、学校での出来事や取組、学習内容をお伝えするようになってきましたが、子ども達の頑張る姿や、楽しそうな様子を、より身近に感じていただくことができていたら幸いです。

ただ言うまでもなく、毎日子ども達が勉強も、運動も、友達関係も、順風満帆で何も問題なく1年間を過ごしていた訳ではありません。各学級では、それなりにいろいろなドラマがありました。思う通りにいかないのが人間社会です。むしろ学校は、そういった状況になった時にどのように乗り越えていくのかを、経験を通して学ぶ場所でもあるのかもしれない。人は、時にぶつかり合ったり、壁に行く手を阻まれたりしながら成長していくものです。

これから子ども達が生きていく未来は、「正解のない社会」とも言われており、自分の価値観が覆されるようなことに会うかもしれません。けれども、困難をしなやかに乗り越え回復する力があれば、物事を悲観的に捉えず、柔軟に自分を適応させることができるでしょう。私達大人が、ただ困難から子どもを遠ざけて守るばかりでは、自立からも遠ざけることになってしまいます。なぜなら将来、何か問題にぶつかった時に、周りの大人が本人の代わりに乗り越えてあげることができないからです。

とはいえ、突き放してばかりでも子ども達は安心して生活することはできないでしょう。悩んだり、誰かに助けってもらったりすることは、人の弱さのバロメーターではなく、むしろ回復力を身につけていく過程に欠かせない要素であると言えます。学校では、子ども達が困ったり悩んだりした時には、その気持ちに寄り添いつつ、いろいろな方法を提案したり、相談したりしながら解決に向かって進めています。それによって子ども達が安心して、次の課題に向かう前向きな気持ちを持ち、自分で考えることができるようになるのです。

もうすぐ都岡小学校に151回目の春がやってきます。厳しい冬をしっかりと乗り越えて花を咲かせる桜のように、たくましくしなやかに成長していくことを願って、これからも真摯に子ども達に向き合いながら教育活動を充実させてまいります。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様、今年度も本校の教育活動にご理解、ご協力くださり、温かく子ども達を見守ってくださいましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。